

ナノインプリント技術セミナー受講案内

ナノインプリント技術研究会

平成 19 年 6 月 25 日

■セミナーの実施にあたって

ナノインプリント技術 (1995年) が提案され約12年が経過し、最近では企業の研究機関からも装置、材料、モールド関連の発表が増えてきています。これに伴い、県内外企業からもナノインプリント等の問い合わせが増加し、関心が高まってきています。

そこで当センターではナノインプリントがどのようなものかを紹介し、製造手段としての応用・発展可能性を探ることを目的に研修会を開催いたします。

今回は、ナノインプリントの第一線でご活躍している先生においでいただきまして、以下の内容について解説いただきます。

皆様には、セミナーの趣旨をご理解のうえ、是非受講くださるようご案内申し上げます。

■セミナー実施要領

1. 目的

ナノインプリント技術に関する知識を得ることを目的とします。

2. 対象者

企業及びその従業員の方で、ナノインプリントに興味がある方。詳細についてはお問い合わせください。

3. 定員

50 名程度

4. 期日 および 内容

日 時 平成 19 年 7 月 18 日 (水) 14:30～16:00 (講演時間 90 分)
16:00～16:30 (質疑応答 30 分)
16:35～17:00 (ナノインプリント技術研究会について 25 分程度)

テーマ 「ナノインプリント技術の概要・今後の展開」

講 師 東北大学 金属材料研究所 工学博士 中尾 正史 先生

場 所 宮城県産業技術総合センター 大会議室

受講料 無 料

※タイトル等、若干変更になる可能性があります。ご了承ください。

5. 受講について

次頁の受講申込書に必要事項をご記入のうえ、平成 19 年 7 月 13 日(金)迄に電子メール、FAX または郵送にてお申し込みください。

6. セミナーについての申込み及び問い合わせは

宮城県産業技術総合センター 機械電子情報技術部 デバイス技術開発班 小松まで

〒981-3206 仙台市泉区明通 2 丁目 2 番地

TEL:022-377-8700 FAX:022-377-8712

URL: <http://www.mit.pref.miyagi.jp/>

e-mail: komatsu-ha990@pref.miyagi.jp

■交通機関

- ・ JR 仙台駅より車で約 40 分
- ・ 東北自動車道 泉 I.C. より車で約 5 分
- ・ バス利用の場合

仙台駅前バスプール 2 番のりばより

「宮城大学・仙台保健福祉専門学校行き」で
「宮城大学・仙台保健福祉専門学校前」下車
徒歩 3 分。

所要時間 上杉経由 約 40 分

県庁市役所前経由 約 50 分

地下鉄泉中央駅より路線バス 3 番のりばより
宮城大学前経由「泉パークタウン車庫行き」で
宮城大学前下車徒歩約 3 分。または

「泉パークタウン車庫行き」県立図書館入口
下車徒歩約 10 分。

所要時間は 高森経由 約 30 分

寺岡紫山経由 約 40 分





FAX 送付票

宮城県産業技術総合センター デバイス技術開発班 小松 行

FAX:022-377-8712

平成 19 年度ナノインプリント技術セミナー受講申込書

平成 19 年 月 日

「平成 19 年度ナノインプリント技術セミナー」の受講を希望します。

受 講 者	フリガナ			
	氏 名			
	会 社 名			
	所 在 地	〒		
	所 属 部 署		職 名	
	ご 連 絡 先	TEL: ()		FAX: ()
		E-mail:		
	ご 担 当	☐ 研究 ☐ 設計 ☐ 品質管理 ☐ 営業 ☐ その他 ()		
	ナノインプリント について	☐ 事業として行っている ☐ 検討段階である ☐ 情報収集段階である		
具体的に知りたい内容、質問等がございましたらお書きください。				
※ナノインプリント技術研究会参加の是非について(事前調査)	☐ 参加する ☐ 検討中である ☐ 参加しない 当日の研修の中で趣旨説明を行った後に、ナノインプリント技術研究会の会員を募集します。ご賛同いただけましたらご加入をお願いします(参加費:無料)。			

複数名でお申し込みの際は、お手数ですが複製してご使用ください。

<本セミナーに関する問い合わせ先>

宮城県産業技術総合センター

機械電子情報技術部 デバイス技術開発班 (担当:小松)

TEL:022-377-8700 FAX:022-377-8712 E-mail:komatsu-ha990@pref.miyagi.jp

※ナノインプリント技術研究会は、先進的取組みをされている大学・企業の講師の講演などにより、ナノインプリント技術の理解を深めると共に、製造手段としての応用・発展可能性を探ることを目的としています。(年4回程度の開催を予定しています)